

# コロニー中央病院だより

## 愛知県医療療育総合センター（仮称）に向けて

～「頼りにされる病院」を目指して～



病院長 吉田太

昨年度は、こぼと学園棟（医療型障害児入所施設）やリハビリセンター棟の稼動開始をはじめとして、これまでの念願でありました病院の改築に関して大きく進展した1年となりました。病院本体工事の道筋も決まって約2年後には、新しく愛知県医療療育総合センター（仮称）として生まれ変わる予定です。新しいセンターは地上5階地下1階で平成30年度末までに竣工する見込みです。現在の中央病院は昭和45年に開所して今年で47年が経過するところで、いろいろな箇所に施設の老朽化に伴う不具合が生じ、これまでも何かとご不便をおかけしておりました。上記の通り、もうすぐ新しくなりますのでどうか、今しばらくはご容赦願います。

本館棟フロア内訳（予定）

	フロア内訳
6階	機械室等
5階	研究所（研究室、動物実験施設）
4階	病院（外科混合、内科混合、手術・中央材料）
3階	病院（児童精神科、心療科、精神外来）
2階	運用部・病院等職員事務室、地域療育支援（福祉型障害児入所施設）
1階	病院（外来、検査、放射線、薬局等） 売店、レストラン 地域療育支援（相談窓口）、研究所（図書館、RI）
B1階	倉庫、機械室等



さて、今年度も中央病院の診療活動は従来以上に活性化させていきたいと職員一同張り切っております。昨年度当初より新しい建物で活動を開始したリハビリ部門は、今年度から従来のこぼと学園所属のリハビリ職員が中央病院に一体化され、より効率的に患者ニーズに応えられるようになると思います。また、昨年度から再開された脳神経外科手術については、対応できる手術症例に一定の制限はあるものの昨年度以上に皆様のお役に立てるように最善の努力を重ねてまいります。重症心身障害児者の医療に関しては、小児神経科や小児外科が中心となって、昨年度は従来以上の大きな役割を果たす事ができたと自負しております。

今後も、在宅で暮らす障害のある人を支える医療の拠点として、この部門は益々拡充していきたいと考えます。以前から利用者の皆様の窓口となっていた指導相談部は、平成28年度から「地域支援課」という新設部署に変わりましたが、対応職員の多くはこれまでと変わらないので安心して相談して下さい。ただ、病院内の仮設工事などで所在が病院本館の2階に移りまして、やや手狭にもなりました。ご不明な点などありましたら、近くの職員にお声をかけていただきどうかご理解賜りますようお願い申し上げます。これから竣工までの2年間は全面建て替え工事が本格化して、駐車場の規制や本体工事の騒音、動線の変更など何かとご不便をかけることも予想されますが、これまで以上に質の高い、安心できる医療を心がけ、障害のある方から「頼りにされる病院」を目指して職員一同努めてまいります。どうか宜しく願い申し上げます。

### ■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

## 障害児者一人一人に より適した外科治療を



右から新美医師、加藤医師、毛利医師、田中医師（常勤4人、非常勤1人）

コロナー中央病院の小児外科は大きく2つの領域、すなわち、小児一般の外科疾患と、重症心身障害児者（以下、重症児者）のQOL向上目的の外科診療をしています。第一に、鼠径ヘルニアや臍ヘルニア、停留精巣、肥厚性幽門狭窄、リンパ管腫など比較的良好に見える小児特有の外科疾患を診療しています。鼠径ヘルニアに対しては従来からの小切開法と、LPECと呼ばれる腹腔鏡下手術を行っています。いずれも全身麻酔が必要のため1泊の入院で行っています。肥厚性幽門狭窄症には美容的配慮から経膈輪の手術を取り入れています。嘔吐を繰り返す、便秘がひどい、便に血液が混じるといった症状の中には外科的介入を要する疾患（胃食道逆流症やヒルシユスプルング病、若年性ポリプなど）が含まれているためその診断と治療を行っています。腸重積や胆道拡張症の診断・治療、二分脊椎症の排尿・排便管理などにも積極的に対応しています。また、新生児の外科疾患は、心疾患を有しないという条件付きですが対応しています。

もう一つの領域である重症児者の外科疾患に関しては、小児だけでなく成人例にも対応しています。重症児者において外科的治療が考慮される主たる病態としては、呼吸の問題、嚥下の問題、嘔吐の問題などがありますが、これらは複合していることが多く総合的な判断が求められます。舌根沈下に伴う閉塞性呼吸障害や、脳性麻痺に伴う摂食・嚥下障害、さらに誤嚥性肺炎、また側彎などの体形変化に伴って食道・胃接合部の逆流防止機能が低下して引き起こされる嘔吐や逆流性食道炎などが対象になります。これらの病態に対し患者さんのQOL向上を目的とした外科的介入、すなわち気管切開術や喉頭気管分離術、胃瘻の作成、胃食道逆流防止術などを行っています。その際に「今の病態に対し、真に必要な治療は何か」、「この治療を優先させるか」、「侵襲が少なく合併症を起こさない術式か」ということを患者さん一人ひとりに体系的・長期的な視野で考えています。これらは手術に際し一般的な事柄ではありませんが、寝たきりで筋緊張が強く、側彎やけいれん、呼吸障害などが複合し、さらに自分の考えを言葉で表現することができない患者さんの診療に当たっては特に考慮すべき問題であると考えています。胃瘻造設術や胃食道逆流防止術などは腹腔鏡手術を標準術式とすることで外科的侵襲が低下し、麻酔科による疼痛管理とあいまって術後合併症の減少につながっています。また、気管切開後の気管腕頭動脈瘻による出血を予防するために術後のフオローアップにも注意を払っています。

重症児者、精神発達障害者の胃カメラや大腸内視鏡検査などは全身麻酔下で行っています。また、イレウスや胆石、泌尿器系の疾患にも対応しています。今後も一般外科や他科の先生、スタッフの方々に私どもの障害児者医療の知識や情報をご提供し、お互いの協力体制を築いていくことで障害児者がより充実した医療を受けられるものと考えています。

外来：(月) (水) (木)  
手術：(火) (水) (金)  
胃ろう・栄養外来  
：第3木曜日（午後）



# NEW 新任医師紹介

中央病院に3名の先生が赴任されました。  
今後ともよろしくお祈りいたします！！



**歯科**  
横山善弘先生



**小児神経科**  
鈴木健史先生



**施設診療科**  
中西圭子先生

出身地：名古屋市  
前任機関：名古屋市立大学  
趣味・特技：  
ゴルフ、カラオケ

今後は自身の技術や技能を向上していくことはもちろんですが、諸先輩方と協力し合い、患者様のために社会貢献したいと思っておりますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。

出身地：静岡県磐田市  
前任機関：名古屋大学  
趣味・特技：  
息子と遊ぶ・サッカー観戦・旅行

楽しい気持ちと不安な気持ちでいっぱいです。知識や経験も足りず、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、精一杯頑張りたいと思います。

出身地：高浜市  
前任機関：コロニー研究所  
趣味・特技：読書。魚の骨やカニの殻を上手に残してきれいに食べることに。

これまでは研究を主にやってきましたが、その知識を生かしつつ、患者さんやそのご家族に寄り添った臨床業務を行っていきたく考えています。

## 診療科の「ここ見て！！」 アピール⑥：歯科

### アピール1

【自閉症など強度行動障害者の  
歯科診療】

じっとしてられない、口を開かないなど地域の歯科医院では対応できない障害のある方に対して、様々な行動変容法を用いて歯科治療の受容を促していきます。

### アピール2

【重症心身障害児・者に対する  
歯科治療および口腔ケア】

呼吸障害や嚥下障害など全身的な合併症を認める重症児・者の歯科治療を行います。また口腔内環境を良好に保つことは、肺炎の防止にもつながります。

### アピール3

【摂食嚥下評価・訓練・VE(嚥下  
内視鏡)による検査】

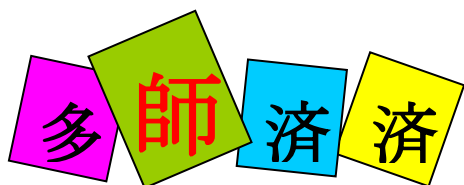
歯科では主に口腔期における問題にアプローチします。口唇、舌などの口腔内評価を中心に摂食嚥下評価を行い、その能力に見合った訓練を提案します。またファイバーを用いてリアルタイムの摂食嚥下動態を確認するVE検査を行っています。

### アピール4

【摂食嚥下障害児の機能訓練  
のための口腔内装置の作成】

歯科における義歯のノウハウを活かし、嚥下の際の舌運動を助ける口腔内装置、口唇閉鎖をサポートする装置などを作成します。

## スタッフ紹介



### 地域支援課相談グループ 看護師 山村みどり

コロニー地域支援課相談支援グループは2年目に突入しました。ご存知の方もいると思いますが、平成28年度より、コロニー各施設の相談窓口が一緒になり、他職種と協働で仕事をしています。とても頼もしい同僚とあたふたとしながらも、患者さん、利用者さんの相談などに応じています。各施設のショートステイ、レスパイト、入所に関することや、病院での看護相談・退院支援、福祉サービスの相談、在宅生活全般の相談、転院や地域移行などの他施設や他病院との連絡調整、一時保護など仕事内容は多岐に渡ります。私は、他職種と協働できることが嬉しくて、忙しい毎日ですが充実した日々を送っています。

私が、コロニーに就職したころは、高度の医療機器を持って自宅に帰る方が少しずつ増えてきた頃で、まだまだ指導方法も確立しておらず、家族と先輩や医師と相談しながら在宅生活をイメージし、一緒に考え、試行錯誤していました。いざ、在宅生活を始めても、家族で頑張るしかない環境でした。その頃、家族と一緒に考え学んだことは、私の基礎になっています。児が家族と過ごす時の嬉しそうな笑顔は、病院で見る顔とは比べ物にならず、もっと在宅生活を送るためのいい方法はないかと思い、研修などいろいろなところで学ぶ機会を見つけ、小児の退院支援について勉強してきました。今、それを生かして患者さんの自宅への訪問指導を始めています。やっと地域で暮らせる在宅医療の環境が進んできたなあと思いながら、患者さんの望む退院支援を精一杯させてもらっています。今後とも宜しくお願いします。

### ～問診票～

- 出身地はどこですか？  
愛知県
- コロニー在籍何年ですか？  
20年くらい
- 趣味は？  
多肉植物
- 血液型は？  
A型
- 猫と犬どっちが好きですか？  
どっちも、マイブームは猫
- 最近、気になるニュースは？  
卓球の平野美宇の世界ランキング
- コロニーで好きな所は？  
コロニーへ入るときのクネクネ道からロータリーへ出て広がる風景・ノスタルジックな建築物



### 新・看護部長紹介 岡田清美さん

こぼと学園から異動してまいりました。新センターの体制づくりとして、看護師の人員確保を最優先課題として取り組みたいと思います。元気印で頑張ります！皆様どうぞよろしく願いいたします。